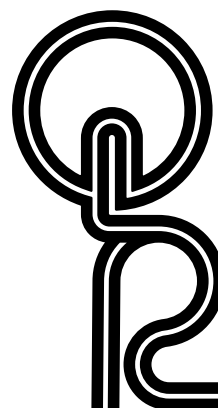


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 9 No.4, 2002



写真：ワークショップ「九州の第四紀学を考える」の会場風景。2002年6月15日に福岡大学セミナーハウスを会場に開催された。九州一円から40名の方々が参加され、16講演に対して活発な討論が繰り広げられた。(撮影：杉山真二)

Vol. 9 No. 4

August 1, 2002

2002年大会の案内・・・・・・・・・・ 3	The Holocene News Letter・・・・・・18
2002年大会プログラム・・・・・・・・ 6	第5回古生物研連議事録・・・・・・19
ワークショップ「九州の第四紀学を 考える」の報告・・・・・・・・・・11	2001年度臨時評議会員議事録・・・・19
講演会等のお知らせ・・・・・・・・12	2001年度第6-8回幹事会議事録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
国際会議等の案内・・・・・・・・・・14	会員消息・・・・・・・・・・・・・・・・21

## 学会からのお知らせ（委任状のお願い）

今回の総会では、会費値上げ問題についての審議が行なわれます。重要議題ですので、総会に出席できない方は本号に綴じ込みました葉書形式の委任状をお送りください。また、この頁の委任状（コピーまたは同様の文面でも結構です）を下記あてにファックスか郵便でお送りくださっても結構です。

### 委任状

2002 年 月 日

日本第四紀学会会長 殿

氏名： (署名または捺印)

所属：

私は議長（または 氏）を代理人と定め、2002 年度の日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任します。

送付先：鈴木毅彦（庶務幹事）東京都立大学大学院理学研究科地理学教室  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1  
FAX 0426-77-2589  
e-mail : suzokit@comp.metro-u.ac.jp

## 日本第四紀学会 2002年大会 - 総会・研究発表(第4報)

一般研究発表 シンポジウム 普及講演会 会場	第四紀学会 第四紀学会(信州大学山岳科学研究所との共催) 第四紀学会(長野県教育委員会・松本市教育委員会 後援) 信州大学
---------------------------------	--

1. 日程の概要  
一般研究発表, シンポジウム, 普及講演会, 総会, 評議員会, 懇親会, 巡検
2. 会場案内 信州大学
3. 講演要旨集
4. 参加費
5. 懇親会
6. 大会プログラム
7. 総会
8. その他

## 1. 日程

2002年8月23日(金) 一般研究発表(理学部大会議室 C棟2階)  
 9:00-11:00 オーラルセッション(O1-10)  
 11:00-11:12 休憩  
 11:12-12:36 オーラルセッション(O11-17)  
 12:36-13:40 昼食休憩(幹事会 理学部C棟12番講義室)  
 13:40-14:30 ポスターセッション ショートサマリー(P1-25)  
 14:30-16:00 休憩・ポスターセッションコアタイム(理学部C棟1階ロビー)  
 16:00-17:36 オーラルセッション(O18-25)  
 17:45-19:00 評議員会(理学部C棟12番講義室)  
 ポスター展示時間 9:00-18:00

2002年8月24日(土) 一般研究発表(理学部大会議室 C棟2階)  
 普及講演会(経済学部大講義室)  
 9:00-10:36 オーラルセッション(O26-33)  
 10:36-10:50 休憩  
 10:50-12:30 日本第四紀学会2002年総会(理学部大会議室 C棟2階)  
 12:30-13:30 昼食休憩  
 13:30-14:30 オーラルセッション(O33-38)  
 14:30-14:40 休憩  
 14:40-16:04 オーラルセッション(O39-45)  
 13:00-17:00 普及講演会  
 17:30-19:30 懇親会(理学部A棟多目的室およびウッドデッキ)  
 ポスター展示時間 9:00-17:00

2002年8月25日(日) シンポジウム(理学部大会議室 C棟2階)  
 「日本アルプスの形成と自然環境の変遷」  
 9:20-17:40 シンポジウム講演(S1-9)

2002年8月26日(月)～27日(火) 野外見学会(3コース)  
 野外見学会に申し込まれた方は会場受付で支払いをし, 必要な資料を受け取って下さい。  
 (早めに受付に行ってください)。なお, 野外見学会の詳細については第3報をご覧ください。

- \* オーラルの講演は例年通り1会場で行われます。発表時間は1件12分で質問時間を含みます。ペルは1鈴8分, 2鈴10分, 終鈴12分です。2鈴で講演を終え, 残り時間を質疑に充ててください。
- \* スライドとOHPはそれぞれ1台ずつ, 同時に使用可能です。
- \* 一般研究発表でのスライド・OHPの使用は合計8枚以内でお願いします。スライドは発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出してください。各スライドには順番, 上下左右を明記

するか、あるいはご自分でマガジンに入れてください。OHPはご自分で操作して下さい。

\* ポスターセッションは横90cm、縦175cmのパネルが用意され、ポスターの展示は2日間通しが可能です。掲示は23日(金)9:00～24日(土)17:00まで可能です。なお、23日午後の休憩・ポスターセッションコアタイムの時間には質問等が受けられるよう、発表者はできる限りポスターセッション会場に居て下さい。

\* ポスターセッション発表者にはオーラル講演の間(8月23日午後)に1件2分以内のショートサマリー発表の時間が与えられます。2枚以内のOHPを使って要領よくセールスポイントを伝えて下さい。

## 2. 会場案内

一般研究発表、シンポジウム、普及講演会、総会、評議員会、懇親会：  
信州大学理学部C棟および経済学部大講義室  
(旭キャンパス：松本市旭3-1-1)

信州大学旭キャンパスへの交通

- ・公共交通機関 JR篠ノ井線松本駅下車 駅正面口(東口)の右前方にある百貨店「エスパ」地下のバスターミナル6番線から信州大学経由浅間温泉行きに乗車、約15分で「信州大学西門前」に。そこで下車、徒歩1分。
- ・タクシー 松本駅前より約10分。料金1400円程度
- ・自家用車 長野自動車道松本I.C.で降りて国道158号線を松本駅方面へ。国道143号線を経て、信州大学。信州大学構内へは車が入りません。大学の北に近接する市営駐車場を利用してください(210円/5時間)。大学周辺は駐車違反の取り締まりが厳しいので、違法駐車は厳に謹んで下さい。

大会連絡先：公文富士夫

信州大学理学部物質循環学科 〒390-8621 松本市旭3-1-1

Tel: 0263-37-2479 Fax: 0263-37-2560 e-mail: shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp

大会実行委員会

委員長：赤羽貞幸

委員：公文富士夫・三宅康幸・堤 隆・及川輝樹・内山高

## 3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売致します。定価は2,500円です。大会終了後、通信販売もいたしますので購入ご希望の方は、下記へお申し込み下さい。

(財)日本学会事務センター 事業部

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC-21

TEL 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822

## 4. 参加費

今大会では、参加費として2,000円を徴収します。ご協力をお願いいたします。

## 5. 懇親会

8月24日(土) 17:30から

場所：理学部A棟多目的室およびウッドデッキ  
生協のケータリングで、ビールパーティ形式

参加費：一般5,000円、院生・学生3,000円

8月23日から第四紀学会会場で受け付けいたします。

## 6. 大会プログラム

(6ページ以降を参照してください)

## 7. 総会

今回の総会では、会費値上げ問題についての審議が行われます。重要議題ですので、会員の皆様は是非ご出席下さい。

## 8. その他

評議員会は8月23日の夕方に開催されます。時間および会場等の詳細については、学会事務局より各評議員に個別に連絡いたします。



## 6. 大会プログラム

8月23日(金)

一般研究発表 オーラルセッション 1日目

これまで第四紀学会大会の一般発表のプログラムは研究対象地域により、北から南へ、そして外国の順に組まれていましたが、2002年大会では発表内容により大きく、年代、テフラ、地形・段丘・断層、地質ほか、古環境・無脊椎動物・植物、脊椎動物・考古に分けて大会プログラムを組みました。発表によっては区分の難しいものもありましたが、発表者の都合や希望などもふまえ、こちらで区分をして、プログラムを組まさせていただきます。

No. 講演時間 題目・氏名

## &lt;年代&gt;

- O1 9:00-9:12 中部琉球喜界島に分布する上部更新統産非造礁単体サンゴのウラン系列年代とその意義 ..... 稲垣美幸・大村明雄(金沢大)
- O2 9:12-9:24 完新統の貝殻密集層における時間平均化の一例 ..... 鎌滝孝信・藤原治(核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)
- O3 9:24-9:36 浅海性堆積物のOSL年代測定 ..... 幡谷竜太(電力中央研究所)・白井正明(東京都立大)
- O4 9:36-9:48 氷河堆積物を用いたOSL年代測定の有効性の検討 ..... 塚本すみ子(東京都立大)・朝日克彦・渡辺悌二(北海道大)
- O5 9:48-10:00 ベトナム南部、ドンナイ川流域における潮汐堆積物および河川性段丘堆積物のRTL年代 ..... 北沢俊幸(信州大・工)・中川貴博(新潟大・自然科学)・橋本哲夫(新潟大・理)

## &lt;テフラ&gt;

- O6 10:00-10:12 日本海北部における深海底コアテフラの記載と広域対比 ..... 田中晶子(構造計画研究所)・池原研(産総研・海洋)・鈴木毅彦(東京都立大)
- O7 10:12-10:24 下総層群上泉層 Km<sup>2</sup> テフラの再記載 ..... 中里裕臣(農業工学研究所)
- O8 10:24-10:36 ハケ岳火山を起源とする最近約20万年間のテフラ ..... 大石雅之・鈴木毅彦(東京都立大)
- O9 10:36-10:48 トカラ列島の第四紀テフラ ..... 森脇広(鹿児島大)・永迫俊郎(東京都立大)・新井房夫(群馬大名誉教授)
- O10 10:48-11:00 阿蘇火山における約2万~1万年前の降下スコリア堆積物 ..... 宮縁育夫(森林総合研究所九州支所)・星住英夫(産総研)・渡辺一徳(熊本大・教育)
- 11:00-11:12 休憩

## &lt;地形・段丘・断層&gt;

- O11 11:12-11:24 下北半島中央低地帯の第四紀形成過程 ..... 桑原拓一郎(東京都立大)
- O12 11:24-11:36 ローム台地の凹地地形と谷系分布 ..... 羽鳥謙三(元共愛短大)
- O13 11:36-11:48 房総半島北部、木更津台地の形成・開析過程と隆起・沈降量 ..... 佐藤俊文(千葉県立木更津東高校)
- O14 11:48-12:00 新潟県北部、胎内川流域における活構造運動 - 河成段丘面からの考察 - ..... 藤平秀一郎(新潟大・自然科学)
- O15 12:00-12:12 丘陵地形と河成段丘面の変形との関係からみた活断層の累積変位特性のモデリング - 信濃川活褶曲帯を事例としての試行 - ..... 金幸隆・岡田篤正(京都大・理)
- O16 12:12-12:24 木曾山脈西縁断層帯・馬籠峠断層福根沢地区における活動時期と変位量 ..... 宍倉正展・遠田晋次(産総研・活断層研究センター)・苅谷愛彦(千葉大)・永井節治(南木曾町在住)・二階堂学・高瀬信一(ダイヤコンサルタント)
- O17 12:24-12:36 ボーリングコアの解析からみた桑名断層の完新世活動史 ..... 鳴橋竜太郎・須貝俊彦・山口正秋・大森博雄(東京大)・栗田泰夫(活断層研究センター)・藤原治(核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)
- 12:36-13:40 昼食休憩(幹事会 理学部C棟12番講義室)
- 13:40-14:30 ポスターセッション ショートサマリー(P1-P25,各2分)
- 14:30-16:00 休憩,ポスターセッション(理学部C棟1階ロビー)
- O18 16:00-16:12 三重県北部の第四紀気候段丘 ..... 松葉千年(桑名市)

- O19 16:12-16:24 中国山地，津山盆地北東部における後期更新世以降のテフラと地形発達  
..... 小倉博之（神戸女学院大・非）
- O20 16:24-16:36 チャオブラヤデルタの表層地質と地形発達  
..... 海津正倫（名古屋大）・Sin Sinsakul・Suwat Tiyaipairach・  
Niran Chaimanee（タイ国鉱物資源局）・川瀬久美子（愛媛大）
- O21 16:36-16:48 フィリピン・サマル島における完新世中期の高海面期  
..... 前田保夫（姫路工大）  
フェルナンド シリンガン・ロス バーディン（フィリピン大）

## &lt;地質ほか&gt;

- O22 16:48-17:00 北海道における最終氷期以降の永久凍土の層厚変化の推定  
..... 藤原治（核燃料サイクル  
機構東濃地科学センター）・福田正己（北海道大・低温研）・末吉哲夫  
（東京大理：現スイス連邦工科大）・五十嵐八枝子（アースサイエンス）
- O23 17:00-17:12 岩石記載・古地磁気層序・広域対比にもとづく八甲田カルデラ起源火砕  
流堆積物群の層序・年代に関する再検討  
..... 鈴木毅彦（東京都立大）・植木岳雪（東京都立大・学振特別研究員）
- O24 17:12-17:24 福島県矢の原湿原における最終間氷期以降の風成塵堆積  
..... 蓑輪貴治（大阪市大）  
成瀬敏郎（兵庫教育大）・叶内敦子（明治大）・豊田新（岡山理科大）
- O25 17:24-17:36 東海地震津波によって形成された津波堆積物の構成とその堆積相  
..... 岡橋久世  
（大阪市大）・秋元和實（熊本大）・三田村宗樹・吉川周作（大阪市大）  
17:40-19:00 評議員会（理学部C棟12番講義室）

8月24日（土）

一般研究発表 オーラルセッション 2日目

## &lt;地質ほか：続き&gt;

- O26 9:00-9:12 長野県深見池年縞堆積物による古環境変遷の復元  
..... 松尾政規・川上郁夫・福澤仁之（東京都立大）
- O27 9:12-9:24 長野県深見池の湖沼年縞堆積物の編年および古環境解析  
..... 川上郁夫・松尾政規・福澤仁之（東京都立大）
- O28 9:24-9:36 八ヶ岳東麓に分布する中部更新統縞状堆積物について  
..... 内山美恵子（大阪市大）・八ヶ岳団体研究グループ
- O29 9:36-9:48 ローム層の炭層序；新潟から長野に広域に分布する炭化石層準  
..... 吉川周作・井上淳（大阪市大）・渡辺秀男（新潟三島中）
- O30 9:48-10:00 琵琶湖周辺域に分布する黒ボク土中の黒色木片について  
..... 井上淳・吉川周作（大阪市大）・千々和一豊（山口大）

## &lt;古環境・無脊椎動物・植物&gt;

- O31 10:00-10:12 沈み込んだ海山の作る Hydrogeology - 千島海溝カデ海山に伴う巨大な  
化学合成生物群集 - ..... 藤岡換太郎・  
佐藤孝子・三輪哲也・能木裕一・加藤千明・鶴哲郎・仲西理子・木戸  
ゆかり（海洋科学技術センター）および YK02-02 航海乗船研究者
- O32 10:12-10:24 広島湾の表層コアから明らかにされた過去約百年間の貝形虫群集と人為  
汚染の変化 ..... 安原盛明（大阪市大）  
山崎秀夫（近畿大）・入月俊明（島根大）・吉川周作（大阪市大）
- O33 10:24-10:36 鮮新・更新統東海層群から産出した昆虫化石と古環境  
..... 森勇一（愛知県立明和高校）  
10:36-10:50 休憩  
10:50-12:30 日本第四紀学会 2002年総会（理学部大会議室 C棟2階）  
12:30-13:30 昼食休憩
- O34 13:30-13:42 琵琶湖湖底堆積物の高解像度珪藻殻堆積量記録からみた過去14万年間の  
夏季降水量変動と中国の乾湿変動 .....  
加三千宣・吉川周作（大阪市大）・井内美郎（愛媛大）
- O35 13:42-13:54 北海道東部・春採湖湖底堆積物の花粉化石から見た親潮の脈動  
..... 五十嵐八枝子（アースサイエンス）・七山太（産総研）
- O36 13:54-14:06 長野県飯山市野々海湿原堆積物の花粉分析  
..... 関口千穂・叶内敦子・杉原重夫（明治大）

2002年大会プログラム

- O37 14:06-14:18 地中海北岸の更新統の縞状堆積物に見られる約2万年周期の気候変動 ..... 奥田昌明(千葉中央博)・N.van Vugt(ユトレヒト大)・中川毅(日文研)・池谷元何(大阪大)・林田明(同志社大)・安田喜憲(日文研)・瀬戸口烈司(京都大)"
- O38 14:18-14:30 有孔虫殻の酸素・炭素同位体比に基づく日本列島東岸沖の過去2万年間の海洋環境変遷 ..... 大場忠道(北海道大・地球環境)"
- 14:30-14:40 休憩
- <脊椎動物・考古>
- O39 14:40-14:52 関東平野西南部の鮮新-前期更新世の陸生哺乳類化石群集からみた大陸から日本列島への陸橋形成期について ..... 小泉明裕(日本大・文理:飯田市美術博物館)
- O40 14:52-15:04 ナウマンゾウ臼歯化石における時代変異 ..... 近藤洋一(野尻湖ナウマンゾウ博物館)
- O41 15:04-15:16 北海道苫小牧市静川22遺跡出土の完新世前期小型哺乳類群集 ..... 河村善也(愛知教育大)
- O42 15:16-15:28 長野県北相木村栃原岩陰遺跡から出土した哺乳類の層位的変化 ..... 利渉幾多郎(大阪市大)・栃原岩陰遺跡発掘調査団
- O43 15:28-15:40 押型文土器(縄文早期)の胎土からみた産地の推定-長野県市道遺跡例の検討- ..... 中村由克(野尻湖ナウマンゾウ博物館)
- O44 15:40-15:52 真人原遺跡の遺物包含層と表土層から出土した石器表面の特徴について-旧石器ねつ造問題と関連して- ..... 福澤仁之(東京都立大・理)・小野昭(東京都立大・人文)
- O45 15:52-16:04 石棺石材の原石は何か-化学組成による推定- ..... 中井弥生・福岡孝昭(立正大・地球)・斎藤裕子(青山学院大・理工)・高木恭二(宇土市教育委員会)

普及講演会

「糸魚川-静岡構造線活断層系北部地域の活動史と地震災害」

世話人:公文富士夫

8月24日(土)13:00-17:00:信州大学経済学部大講義室

講演時間 題目・氏名

- L1 13:00-14:00 糸魚川-静岡線活断層系の発掘調査結果について ..... (宮越勝義・電力中央研究所)
- L2 14:00-15:00 牛伏寺断層と松本の防災 ..... 酒井潤一(信州大・名誉教授)
- 15:00-15:20 休憩
- L3 15:20-16:20 糸魚川-静岡構造線北部活断層系の運動と地震災害について ..... 塚原弘昭(信州大・理・教授)
- 16:20-17:00 総合討論

懇親会

17:30-19:30

ポスターセッション:1日目 13:40-16:00  
(ショートサマリーおよびコアタイム)

No. 題目・氏名

<年代>

- P1 洞爺火砕流石英粒子を用いたTL年代測定法におけるSingle grain法の検討 ..... 宮内和則(日本大・文理)・橋本哲夫・中川貴博(新潟大)・遠藤邦彦・印牧もとこ(日本大・文理)
- P2 旧石器遺跡に関連する火山灰および風成・水成堆積物層のルミネッセンス(IRSLおよびTL)年代測定 ..... 下岡順直(奈良大)・長友恒人(奈良教育大)
- P3 ウラン系列年代測定法によるフィリピン諸島ルソン島北西海岸部の完新世海面変化に関する研究 ..... 細野洋祐・大村明雄(金沢大)・前田保夫(フィリピン大)

<テフラ>

- P4 南関東における上総層群中のテフラ鍵層の対比 ..... 高野繁昭(法政大・文)



- P5 テフラの屈折率による犬吠層群上部と上総層群の対比 ... 佐藤弘幸 (静岡聖光学院高校)
- P6 大阪平野地下における中・下部更新統の火山灰層序 - OD-5 コアにもとづく再検討 - ...  
石井陽子 (大阪市立自然史博物館・大阪市大)
- P7 西南日本における過去 40 万年間の爆発的火山噴火史 - 火山ガラスの主成分化学組成に  
基づくテフラ層序の再構築 - ..... 長橋良隆 (福島大)・吉川周作 (大阪市大)・宮川  
ちひろ (地域地盤環境研究所)・内山高 (山梨県環境科学研究所)・井内美郎 (愛媛大)

## &lt; 地形・段丘・断層 &gt;

- P8 魚沼丘陵の形成プロセスと活断層の活動性 ..... 金幸隆 (京都大・理)
- P9 五島列島南部の鬼岳単成火山群の噴火史 .....  
長岡信治 (長崎大)・古山勝彦 (大阪市大)・新井房夫 (前橋市)・松岡數充 (長崎大)
- P10 タイ, チャオプラヤデルタの完新世における発達様式 .....  
田辺晋 (新潟大)・斎藤文紀 (産総研・海洋資源環境)・佐藤喜男 (チュラロン  
コン大)・鈴木祐一郎 (産総研・地圏資源環境)・Sin Sinsakul (タイ国鉱物資源部)

## &lt; 地質ほか &gt;

- P11 八甲田カルデラ起源火砕流堆積物の古地磁気層序: 特にブルーン - 松山クロン境界の  
層位について ..... 植木岳雪 (東京都立大・学振特別研究員)・鈴木毅彦 (東京都立大)
- P12 関東山地のホルンフェルスとその礫について .....  
加賀美英雄 (城西大・理)・谷口英嗣 (駒沢大高校)
- P13 富士五湖山中湖ボーリングコアのテフラ層序と花粉分析 .....  
内山高・輿水達司 (山梨県環境科学研究所)・渡邊正巳 (文化財調査コンサルタント)
- P14 青木湖底堆積物から見た糸 - 静線活断層系北部の活動度 .....  
公文富士夫 (信州大・理)・井内美郎 (愛媛大)
- P15 The loess-paleosol sequence in the areas between Dukso and Hongcheon of  
Korean Peninsular .....  
Jaе-Bong Shin, Kang-Min Yu (Yonsei Univ.), Naruse Toshiro (Hyogo Univ.  
Teacher Educ.), Takemura Keiji (Kyoto Univ.), and Sung-Soo Kim (Yonsei Univ.)
- P16 雲南省エルハイ湖底堆積物の鉱物化学組成に基づく過去 10 万年間の湖水位変動 .....  
山田和芳・福沢仁之 (東京都立大)・安田喜憲 (日文研)
- P17 中国東海 Chenshan 島, 黄土 - 古土壌シークエンスにおける東アジアモンスーン変動  
の高精度解析記録と古気候標識 .....  
漆富成・遠藤邦彦 (日本大・文理)・鄭祥民・周立旻 (華東師範大)
- P18 ベトナム紅河デルタにおける完新世中期の海水準変動 .....  
堀和明 (学振・産総研)・田辺晋 (新潟大)・春山成子 (東京大)・斎藤文紀 (産総研)

## &lt; 古環境・古生物 &gt;

- P19 中国東部, 太湖とその周辺域における環境変遷 - 主に有孔虫群集に基いて - .....  
吉田誠・遠藤邦彦・村田泰輔  
(日本大・文理)・下山正一 (九州大)・米田穰 (国立環境研究所)・長谷川史彦 (セン  
トラル航測)・鄭祥民・周立旻 (華東師範大)・磯望 (西南学院大)・鈴木正章 (道都大)
- P20 炭酸カルシウム含有量による堆積環境の判定 ..... 藤森雄一  
(東海大)・福江正治 (東海大・海洋)・増淵和夫 (川崎市立日本民家園)・浜田晋介  
(川崎市市民ミュージアム)・上西登志子 (自然史研究会)・杉原重夫 (明治大・文)
- P21 栃木県奥日光兔島半島における泥炭土壌と森林土壌の花粉分析 .....  
田邊範子 (東京都農業試験場)・坂上寛一 (東京農工大)・叶内敦子 (明治大・文)
- P22 東京湾西岸, 多摩川右岸流域における完新世の古植生変遷 .....  
増淵和夫 (川崎市立日本民家園)・上西登志子  
(自然史研究会)・浜田晋介 (川崎市市民ミュージアム)・杉原重夫 (明治大・文)
- P23 100 年前の植物プランクトン群集は現世に復元できるか? ~ 植物プランクトンの生存  
戦略における休眠細胞の役割についての考察 ~ .....  
加藤めぐみ・石原園子 (東京都立大)・谷村好洋 (国立科博)・福沢仁之 (東京都立大)

## &lt; 考古 &gt;

- P24 東京湾東岸と印旛沼周辺の縄文後期貝塚群の動物資源利用と遺跡立地の諸相 - GIS を  
用いた遺跡古生態評価の試み - .....  
樋泉岳二 (早稲田大)・津村宏臣 (総研大・歴博)・西野雅人 (千葉県文化財センター)
- P25 縄文時代から平安時代の土器に土中で沈着する元素 ..... 松本建速 (筑波大)

## シンポジウム「日本アルプスの形成と自然環境の変遷」

世話人：三宅康幸・公文富士夫・赤羽貞幸・鈴木毅彦・堤 隆  
8月25日(日)：信州大学理学部大会議室(C棟2階)

No.	講演時間	題目・氏名
	9:20-9:30	開会挨拶
S1	9:30-10:20	飛騨山脈における二段階の隆起過程 - 第四紀初頭の曲隆と更新世中期以降の傾動隆起 - * ..... 原山 智(信州大・理)
S2	10:20-11:00	テフラ研究からみた中部山岳周辺域の中・後期更新世編年の諸問題について * ..... 鈴木毅彦(東京都立大・理)
	11:00-11:10	休憩
S3	11:10-11:40	飛騨山脈の隆起と火成活動の時空的関連 - マグマの定置と熱による山脈の形成 - ..... 及川輝樹(信州大・工)
S4	11:40-12:10	中期更新世の八ヶ岳火山活動史 ..... 内山 高(山梨県環境科学研究所)・八ヶ岳団体研究グループ
	12:10-13:00	昼食休憩
S5	13:00-13:50	更新世以降の日本列島の気候変動のトリガーはなにか? - チベット高原とWarm Water Poolの役割 - * ..... 福澤仁之(東京都立大・理)
S6	13:50-14:40	最終氷期以降の日本アルプスの地形形成環境 - 氷河・周氷河・重力地形について - * ..... 岩田修二(東京都立大・理)
	14:40-14:50	休憩
S7	14:50-15:20	野尻湖底ボーリング試料の有機炭素・窒素量と花粉組成の変動から見た最終氷期後半から完新世にかけての気候変動 ..... 公文富士夫(信州大・理)・河合小百合・井内美郎(愛媛大)
S8	15:20-15:50	中部高地における後期更新世以降の人類活動 ..... 中村由克(野尻湖ナウマンゾウ博物館)
S9	15:50-16:20	最終氷期最寒冷期の人類社会と環境適応 ..... 堤 隆(御代田町教育委員会)
S10	16:20-16:50	内陸盆地における最終氷期以降の堆積物と気候変動 ..... 赤羽貞幸(信州大・教育)
	16:50-17:30	総合討論
	17:30-17:40	まとめと閉会挨拶

\* キーノート：講演時間50分(質疑時間10分を含む)  
その他：講演時間30分(質疑時間5分含む)

## 特別展のご案内

「化石からたどる植物の進化 - 陸に上がった植物のあゆみ - 」

陸上植物は約5億年前に藻類から進化して水中から陸上へ進出し、緑豊かな地球環境をつくりだしてきました。植物が体のつくりや繁殖・散布方法を進化させてきた5億年の歴史を日本や世界各地から産出した化石をもとに紹介します。

期間：平成14年9月1日(日)まで開催中

休館日：毎週月曜日

開館時間：午前9時30分～午後4時30分 (入館は4時まで)

会場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)

観覧料：大人400円、高校・大学生300円。

## 【展示内容】

植物化石のいろいろ、植物化石のでき方、植物の起源、陸に上がった植物、地球最初の森、種子植物の誕生、ゴンドワナ大陸の植物、裸子植物の繁栄、日本の中生代植物化石、被子植物の誕生と繁栄、日本の新生代化石植物群、生きている化石植物(生品展示)

所在地：大阪市東住吉区長居公園1-23(長居植物園内) 電話：06-6697-6221

最寄駅：地下鉄御堂筋線「長居」駅、徒歩10分。JR阪和線「長居」駅、徒歩15分。

URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

## ワークショップ「九州の第四紀学を考える」の報告

世話人：磯 望（西南学院大学）・小池裕子（九州大学）・奥野 充（福岡大学）

去る6月15日（土）の午後、福岡大学セミナーハウス（福岡市中央区）において、ワークショップ「九州の第四紀学を考える」が開催されました。このワークショップは、本年3月に、松田時彦先生の西南学院大学ご退職を記念した談話会に、九州の第四紀研究者が集ったことがきっかけになっています。その際、このような集会をあまり構えずに時折できればという声が聞かれました。そこで今回、九州の第四紀学の将来を気軽に語りあうことになりました。幸い多くの方々から「九州」「第四紀」をキーワードとして、「話題提供」や「コメント」をいただけることになりました。当日の演題は、下記の通り、古環境復元および活断層/活構造に関する研究に大きく2つに分けられますが、「第四紀研究」に限定することなく隣接分野にまで及んでいます。

これらには研究手法から研究成果の展示に関するものまで、多岐の段階にわたる研究が含まれており、このワークショップの特色のひとつになりました。演者の方々も、福岡から鹿児島までの九州各県からお集りくださり、文字通り「九州の第四紀学を考える」にふさわしいものとなっています。また、大学院生やポスドクといった20代若手から60代のベテランまで、年齢構成もバラエティーに富んでいます。このような、いくつかのバラエティーは、世話人の当初の想定を大きく超えるうれしい誤算であり、九州の第四紀学の健全さ（ポテンシャルの高さ）が確認できたのではないかと考えております。

磯 望（西南学院大）「自然環境の展示の可能性 - 太宰府市政記念および九州国立博物館の展示を巡って -」  
 杉山真二（古環境研究所）「九州の照葉樹林と草原の物語 - 植物珪酸体は何を語るか」  
 井上 弦（宮崎大）「都城盆地における埋没土壌の生成機構」  
 三原正三（九州大）「佐賀県大友遺跡出土人骨の14C年代と海洋リザーバー効果」  
 黒木貴一（福岡教育大）「Handy Geoslicerの地形調査利用事例」  
 鳥井真之（熊本大）「南九州における鮮新世～前期更新世のテフラ層序」  
 長谷義隆・松田博貴・秋元和實（熊本大）・塚脇真二（金沢大）・中原功一朗・平城兼寿（熊本大）「有明海南東部の海底ボーリングコアに基づく有明海形成過程の考察」  
 松岡数充（長崎大）「渦鞭毛藻化石から見た有明海・諫早湾の過去数十年間の環境変化」  
 鹿島 薫（九州大）「珪藻分析による古環境復元を行うための注意点」  
 奥野 充（福岡大）「山地地域の古環境学 - 脊

振山地における取り組み」  
 酒井治孝（九州大）「100万年前にヒマラヤと西南日本で発生した地殻変動」  
 森脇 広（鹿児島大）「テフラ編年から屋久島・種子島の第四紀の隆起を考える」  
 竹村恵二（京都大）「活断層活動時期推定の高精度化 - 内湾の活断層調査から -」  
 千田 昇（大分大）「正断層密集帯の断層分布と変位量の関係（崩平山地域）」  
 松山尚典（応用地質）「大分での活断層調査結果」  
 田口幸洋（福岡大）「活断層と地熱帯 - 大岳・八丁原地域 -」

参加者数は延べ40名にのぼり、各講演に対して活発な質疑応答が行われました。講演時間は、「話題提供」が20分、「コメント」が10分を目途としましたが、厳密に区切らずにおおらかに討論できるようにしたため、終了予定時刻を30分以上も超過してしまいました。しかし、プログラムの定時消化に終始しがちな普通の学会とは違っていた満足感がありました。引き続き、同セミナーハウス内のレストランに場所を移して懇親会も行われ、それまでの議論の余韻に浸りながら、相互の親睦をはかりました。

さらに九大・六本松周辺の居酒屋に移動して、深夜まで議論が繰りひろげられました。参加者の方々からは、「盛りだくさんの内容と多くの参加者に感激した」「こういった会は必要でありながら、目的が多様であり、とりまとめ役が欠いていた感があった」「土木工学と地質学など、隣接する分野間で情報交換できれば、現実の問題を解決し、事故の防止や経済性の向上に役立つと感じる」などの感想が寄せられています。

このように、今回のワークショップを開催した意義は、少なからずあったのではないかと感じております。ただし、今後、このようなワークショップをどのように催すのかについては、決まっておりません。「気軽に」「何か目標を」など、様々な意見が浮かんで消えている状況です。なお、このワークショップの内容は、「月刊地球」に特集号としてまとめられることになっています。これについても「気軽な集まりと言っていたのに、ちょっと話が違ってきただけではないか」という声も聞かれます。このワークショップでご迷惑をおかけした点多々あるのではと思いますが、世話人としても、当初の想定を超えることばかりであり、ご容赦いただきたいと思っております。最後に、今回のワークショップが、「九州の第四紀学を考える」何かのきっかけになればと希望いたしております。

## 日本第四紀学会講習会「湖沼・内湾・レス堆積物コアの採取・解析法」

1980年代以降の第四紀学や地球表層環境変動に関する研究における大きな進展は、氷床、レス - 古土壌や海底・湖沼堆積物などから採取された掘削コアの解析によって、過去の古環境復元が高精度で可能になったことである。

従来の地形・地質層序学と化石を組み合わせた環境復元と比較すると、数倍・数10倍の高分解能で変動指標の検出が可能になった。これらのコアを使った解析では、海洋、氷床、大気循環などの変動を直接とらえることができるから、それら相互の関連を解析することによって全地球規模での環境変動を明らかにすることができ、その原因にもかなり接近できるようになった。

一方、地震予知・火山防災などの面からも、各行政・研究機関で大量のコア試料が採取され、それらの目的に基づいた能率よい解析が必要不可欠になってきており、イベントの検出とその周期性の解明などが行なわれつつある。

このため、研究面あるいは実務面で必要最小限な堆積物コア試料の採取・解析法についての講習会を下記のように企画した。講習会は実際のコアリングなどの野外講習会と、実際の分析・解析方法についての室内講習会に分けて合計2回実施することとした。

### 記

#### 期日：

野外講習会：2002年8月22日（木）  
室内講習会：2002年10月13日（土）  
～14日（日）

#### 場所：

野外講習会：長野県阿南町深見池（雨天実施）  
室内講習会：八王子市南大沢1-1 東京都立大学地理学教室（理学部棟7階）

#### 内容：

野外講習会：湖沼年縞堆積物の採取および試料採取（sub-sampling）方法  
（1）サンプラーによるピストンコアリング実施と現世湖水環境の観測）  
（2）セディメントトラップの説明）  
8月22日 9：00 現地集合（深見池は阿南町役場の真後ろに位置）  
（担当者：福澤仁之、公文富士夫、下平 勇、山田和芳、加藤めぐみ他）

室内講習会：湖沼・内湾・レス堆積物コアの解析法

10月13日（土）14：00～17：30 [コア解析の説明会]

- 1) コア解析法の概略（担当者：福澤仁之）
- 2) 湖沼・海洋堆積物コアの記載（担当者：小森次郎）
- 3) 湖沼・レス堆積物コアの解析（担当者：山

- 田和芳）
- 4) コアおよびセディメントトラップ試料の珪藻分析（担当者：加藤めぐみ）
- 5) コア試料の花粉分析と電子顕微鏡による種同定（担当者：藤木利之）
- 6) コア試料の貝化石同定（担当者：川上郁夫）
- 7) コア試料の環境磁気分析（担当者：松尾政規）
- 8) コア試料から何がわかるか？（担当者：福澤仁之）

10月14日（日）10：00～16：00 [コアの記載・分析法の講習]

- 1) コア写真撮影、2) 記載、3) 軟X線撮影、4) 初磁化率測定、5) 分光測色分析、6) 堆積物薄片作成、7) スミアスライド作成、8) 顕微鏡観察、9) コア試料とセディメントトラップ試料の珪藻分析、10) XRDによる鉱物同定、11) XRF・ICPによる元素分析、12) 有機・無機炭素分析、13) レス堆積物の粒度分析（担当者：福澤仁之、藤木利之、山田和芳、加藤めぐみ、小森次郎、川上郁夫、松尾政規）

#### 提供資料：

- 1) 野外講習会資料「深見池の湖水環境と堆積物からみた過去200年間の古環境変動」
- 2) 室内講習会資料「湖沼・内湾・レス堆積物コア試料分析法マニュアル」CD-ROM付\* CD-ROMには資料（マニュアル、説明会パワーポイントの一部）、「湖沼・内湾・レス堆積物によるアジアモンスーン変動のトリガーの解明」（375p.、PDF書類）、「汽水湖堆積物を用いた過去2000年間の気候・海水準・降砂変動の解明」（159p.、PDF書類）を含む。

#### 講習費用：

野外講習会：1,000円、室内講習会：6,000円（いずれも宿泊費・食事代は含みません）

#### 募集定員：

10月13日～14日のみ定員20名（先着順）  
8月22日のみの参加者も資料の準備があるので申し込んで下さい。

#### 申込締切：

野外講習会：2002年8月10日、  
室内講習会：2002年8月31日

#### 申込先および問い合わせ先：

192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学大学院理学研究科地理科学専攻  
福澤仁之  
電話 0426-77-2605、FAX 0426-77-2589、E-mail varve@geog.metro-u.ac.jp

**テフラ・火山研究委員会, 古土壌研究委員会, ネオテクトニクス研究委員会, 日本学術会議第四紀研究連絡委員会からのお知らせ**

日本第四紀学会の研究委員会である標記3委員会と日本学術会議第四紀研究連絡委員会では、2002年の活動として次のようなシンポジウムの開催と野外巡検を企画しました。ふるってご参加下さい。

一方のみの参加, 両方への参加, とともに歓迎いたします。

タイトル: 南関東のローム層を見直す ―テフラ, 古土壌, 考古学遺物, 地殻変動の諸観点から―

テーマ:

ローム層と古土壌の形成: 火山活動, 風塵の飛来, 気候・植生および人類活動との関係  
 関東ローム層とくに立川・武蔵野ローム層の堆積年代  
 旧石器 "3万年問題" (愛鷹山に限らない: 相模野~愛鷹山麓としたら)

<野外巡検編>

日時: 2002年9月5日(木)~9月6日(金)  
 (1泊2日)

場所: 多摩丘陵・相模野台地~富士火山麓・愛鷹火山麓~富士宮(集合解散とも都内を予定)

宿泊地: 富士火山麓(詳細未定)

巡検テーマ:

・ローム層と古土壌の形成: 火山活動, 風塵の飛来, 気候・植生および人類活動との関係  
 ・関東ローム層とくに立川・武蔵野ローム層の堆積年代  
 ・旧石器 "3万年問題" (相模野~愛鷹山麓)  
 ・富士宮周辺の変動地形と富士川河口断層帯

連絡先: 鈴木毅彦 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学大学院理学研究科地理学教室 TEL: 0426-77-2590

FAX: 0426-77-2589

e-mail: suzokit@comp.metro-u.ac.jp

参加費: 約20,000円(宿泊費, バス代, 昼食代込み 最後に精算します)

申込方法: 都立大鈴木毅彦(連絡先上記)まで, 名前・所属・連絡先(e-mailアドレスのみで可)を付記して8月15日までに申込み下さい。申し込みと同時に申込金10,000円をお支払い下さい。

振込先は, 郵便振替口座: 00190-0-720271  
 名義: 鈴木毅彦です。締切り日は8月15日としますが, 人数超過が予想されますのでお申し込みはお早めをお願いいたします。

先着順で40名のお申し込みを受け付ける予定です。申し込み後8/25までにキャンセルされる場合は申込金を返却します。参加人数が規定に達しない場合, 中止することがあります。参加予定者には8月中旬に最終案内を

差し上げます。

<シンポジウム編>

日時: 2002年9月7日(土) 午前9:30~午後16:30

場所: 明治大学駿河台キャンパス リバティータワー1103号室

オーガナイザー: 町田 洋・坂上寛一・山崎晴雄・杉原重夫・鈴木毅彦

主催: テフラ・火山研究委員会, 古土壌研究委員会, ネオテクトニクス研究委員会, 日本学術会議第四紀研究連絡委員会

シンポジウムオーガナイザーとしては, すでに何人かのkey note speakerを予定しておりますが, 一般にもひろく表題に関わる話題提供を募集いたします。テフラをめぐる同定・年代測定などの手法, テフラ層序, 火山学, 古環境の復元, 考古学, テクトニクスなど多岐にわたるテーマをお待ちしています。

講演希望者は下記の問い合わせ先までご連絡下さい(8月15日締切)。最終的なプログラムは, 第四紀学会のホームページに8月中旬頃に掲載いたします。

参加無料。事前登録は必要ありません。直接会場において下さい。

問い合わせ先: 鈴木毅彦 東京都立大学大学院理学研究科地理学教室 TEL: 0426-77-2590 FAX: 0426-77-2589 e-mail: suzokit@comp.metro-u.ac.jp

**平成14年度(第24回)沖縄研究奨励賞の募集のお知らせ**

目的: 沖縄研究奨励賞は, 沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し, 育成することを目的としています。本奨励賞は, 沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学, 人文科学又は社会科学)を行っている新進研究者(又はグループ)の中から, 受賞者3名以内を選考し, 奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。応募資格は, 学会, 研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下(7月15日現在)の方で, 出身地及び国籍は問いません。

応募期間: 平成14年7月15日(当日消印から有効)~9月30日(当日消印まで有効)

応募方法・応募用紙請求・注意事項・その他詳細の問い合わせ先:(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当 石坂次郎

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 グローリアビル7F

TEL: 03-3580-0641, FAX: 03-3597-5854

E-mail: fvgm0090@mb.infoweb.ne.jp

ホームページアドレス: <http://village.infoweb.ne.jp/~fvgm0090/>

## 第46回粘土科学討論会

第46回粘土科学討論会を下記の要領にて開催いたします。皆様の参加をお待ち致します。

- 1) 期日：平成14年9月19日(木)・20日(金)
- 2) 主催：日本粘土学会
- 3) 共催学会：日本第四紀学会ほか
- 4) 会場：東北大学 農学部・農学研究科講義棟  
〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1  
TEL 022-717-8645 (南條)
- 5) 日程：
 

9月19日	9:00-12:00	口頭発表
	13:00-14:00	会長講演
	14:00-17:30	シンポジウム
	18:00-	懇親会
9月20日	9:00-11:00	口頭発表
	11:00-12:00	
		日本粘土学会総会
	9:00-12:00	ポスター展示
	13:00-15:00	ポスター討論
	15:00-17:30	口頭発表
- 6) 会長講演：中沢弘基(東北大学理学研究科教授)「"Claysphere: past, present and future"の視点から」
- 7) テーマ「地球サブシステムとしての粘土圏の役割ー環境親和物質としての粘土ー」  
環境親和粘土総論  
「地圏・水圏の有害重金属挙動に対する粘土の役割」 丸茂克美(産総研)  
「粘土圏：地質圏と生物圏を結ぶプロセスの場の実体」 長沼毅(広島大)  
環境親和粘土各論  
「複合化による漏洩防止材料としてのスメクタイトの機能高度化」  
小野寺嘉郎(産総研)  
「ハイドロタルサイトの環境親和的利用」  
日比野俊行(産総研)  
「アロフェン・イモゴライトの性質と応用」 鈴木正哉(産総研)  
「フェリハイドライト・シュベルトマナイトの生成と環境親和物質としての役割」

福土圭介(金沢大)  
「土壌粘土と環境保全」  
高橋正(東北大)

8) 連絡先：〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1  
東北大学大学院農学研究科

南條正巳

TEL：022-717-8645

FAX：022-717-8649

email：nanzyo@bios.tohoku.ac.jp

9) 交通と宿泊：会場まではJR仙台駅前から地下鉄(泉中央駅行きに乗車、北4番丁駅下車、徒歩10分)及び仙台市営バス、宮城交通バス(JR仙台駅西口バスプール、他より)が利用可能です。

宿泊はJR仙台駅周辺～会場周辺が便利かと思えます。ホテル名など具体的案内は省略させていただきます。

## 国際ワークショップのお知らせ

ICDP (International Continental Scientific Drilling Program)

国際ワークショップ「Lake Biwa and Lake Suigetsu: Records of Global Paleoenvironment and Island Arc Tectonics」

会期：2002年11月22日(金)～11月24日(日)

会場：京都大学大学院理学研究科 6号館  
(〒606-8502 京都市左京区北白川追分町)

ICDP 国際ワークショップ "Lake Biwa and Lake Suigetsu" についての問い合わせ先：  
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 竹村恵二

874-0903 大分県別府市野口原

電話：0977-22-0713(ex 12)

ファックス：0977-22-0965

E mail: takemura@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp

## FIFTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON ASIAN MARINE GEOLOGY

1988年以来約4年に一度開催されてきましたアジア海洋地質会議の次回の案内が届きましたのでお知らせいたします。

アジア海洋地質会議は、1988年(中国上海)、1992年(東京)、1995年(韓国済州島)、1999年(中国青島)で開催され、今回が第5回になります。過去の4回は東アジアでの開催でしたが、今回はタイのバンコクで2004年1月に開催されます。東南アジアで初めての会合になります。ホストは、チュラロンコン大学で、DMR, CCOP, IOC-WESTPACが共催となります。構造地質、層序、堆積、資源、古海洋、古気候、環境問題など多岐の講演が期待され、また陸上の地

層も対象となります。

産総研海洋資源環境 齋藤文紀

First Circular

FIFTH INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON ASIAN MARINE GEOLOGY

14 - 16 January 2004

Bangkok, Thailand.

Background :

The fifth International Conference on Asian Marine Geology will be held on 14-16 January

2004 in Bangkok, Thailand. The conference will consist of a 2-or 3-day session of paper presentations and posters, followed by 3 days of field trip to various coastal areas along the Gulf of Thailand and the Chao Phraya delta. The organizers are inviting papers relevant to the theme of the conference with geographical emphasis on the Asian region. This conference provides an opportunity to discuss and focus on the following themes:

- Prospect of Asian Marine Geology
- Marine Sediment Dynamics
- Geology of the Asian Seas
- Tectonics and Basin Evolution in Asian Seas
- Asian Deltas : their evolution and recent changes
- Linkage & Gateway between Pacific and Indian Oceans
- Himalaya - Tibet Uplift and Cenozoic Climate
- Marginal Seas Evolution
- Oil and Gas in SE Asia Seas
- Linkage and Interaction of lands and Oceans
- Human Impacts on Coastal Zone Areas and Sustainable Development

Please fill and return the Pre-registration form in order to enable the organizers to finalize preparations and send you further informations.

#### Abstract Submission

An abstract should be submitted by August 31, 2003. Abstract must be sent to The organizing committee via electronic mail and should include the following :

- (1) Name and affiliation of author(s)
- (2) Correspondence address (both of post mail and e-mail)
- (3) Title of the paper
- (4) Abstract ( 300-500 words)

For those who are not able to submit their abstracts by e-mail, the abstract should be printed in on A4 paper (210 mm X 297 mm.) left margin 30 mm, right margin 20 mm, top margin 35 mm, bottom margin 20 mm, and mailed to conference Secretariat. Enclosure of floppy disk (MS Word version) will be greatly appreciated.

#### Language

The conference language will be English.

#### Venue

The conference will be held at the Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand.

#### Accommodation

Will be arranged at all price levels. Full details and a booking form will be included in the next circular.

#### Registration Fee

- |                  |                             |
|------------------|-----------------------------|
| a) Participant   | 1,800 Baht (ca. US\$ 40-50) |
| b) Thai officers | 900 Baht                    |

#### Tentative Timetable

- September 30, 2002: Pre-Registration form due  
 December 15, 2002 : Second Circular issued  
 August 31, 2003 : Abstracts due  
 October 15, 2003 : Registration form due  
 November 30, 2003: Final circular will be sent  
 January 14 , 2004 : Submission of manuscripts  
 January 14-16 2004: Conference

#### Correspondence

All correspondence should be mailed to:  
 Dr. Thanawat Jarupongsakul  
 Department of Geology  
 Faculty of Science  
 Chulalongkorn University  
 Bangkok 10330 , Thailand.  
 E-mail: thanawat @sc.chula.ac.th  
 Fax: (662) 2185464-5  
 Tel: (662) 2185459

#### <Pre - registration Form>

5 th International Conference on Asian Marine Geology (ICAMG-V)  
 14 - 16 January 2004  
 Bangkok, Thailand.

#### 1. I will attend the ICAMG-V:

Definitely ( ) Probably ( )

#### 2. Category of participant

( ) I wish to submit a paper for the ICAMG-V.

Title:

(1)

Title:

(2)

( ) I wish to submit a poster for the ICAMG-V.

Title:

(1)

Title:

(2)

( ) I am interested in participating the ICAMG-V.

( ) Please send me more information about the ICAMG-V.

1. Name :

Position :

Address :

E-mail:

Fax:

Tel.:

## Vietnamese-Japanese Geological Meeting 2002

### Delta Evolution and Recent Environmental Changes

#### FIRST CIRCULAR

22nd- 27th December, 2002  
Ho Chi Minh City, Vietnam

#### Meeting purpose:

The primary purposes of this meeting are: (1) to summarize current knowledge of deltas in the Asian region, to document and explain Holocene evolution of deltas with special focus on the Mekong River Delta, south Vietnam, (2) to have comparative discussion on coastal environmental problems in Asia and the Mekong River Delta, and on recent changes due to human activities in a delta area related to global changes.

#### Meeting venue:

The meeting will be held at the Sub-Institute of Geography in Ho Chi Minh City, National Center for Natural Science and Technology, Ho Chi Minh City, Vietnam.

#### Schedule:

22-24 December, 2002: Scientific presentation in Ho Chi Minh City  
25-27 December, 2002: Field excursion

#### Organizing Committee:

##### Co-Chairman

Professor Masaaki TATEISHI, Niigata University, Japan

Dr. Nguyen Van Lap, Sub-Institute of Geography, National Center for Natural Science and Technology, Vietnam

##### Secretary

Dr. Ta Thi Kim Oanh, Sub-Institute of Geography, National Center for Natural Science and Technology, Vietnam

##### Members

Professor Iwao KOBAYASHI, Niigata University, Japan

Professor Masatomo UMITSU, Nagoya University, Japan

Dr. Yoshiki SAITO, Institute for Marine Resources and Environment, Geological Survey of Japan, AIST

Dr. Tran Duc Thanh, Haiphong Institute of Oceanology, National Center for Natural Science and Technology, Vietnam

#### Sponsors

Department of Geology, Niigata University, Japan

#### Supporters

Committee of Earth Science of Vietnam  
Sub-Institute of Geography in Ho Chi Minh City

#### Topics

Delta evolution in the Quaternary  
Recent Environmental Changes and Human Impacts on Coastal lowlands.

#### Conference Language

English  
Vietnamese (special session)

#### Registration

Registration should be submitted by 26th June, 2002

Registration should be sent to the Organizing Committee via postal or electronic mail, and should include the following information:

- (1) Title of the oral paper and /or poster paper
- (2) Name and affiliation of the author(s)
- (3) Correspondence address (for both post mail and e-mail)

#### Key Dates

May 2002: First circular announcement

26th June, 2002: registration deadline

July 2002: Second circular announcement

October 2002: Third circular announcement with meeting programme

#### Meeting Costs

Registration: free

Excursion: 200 USD (hotel, transportation and meals)

#### Field Trip

Duration: 3 days from Dec. 25-27, 2002

1/ Pleistocene terraces in DongNai Province, north Ho Chi Minh City

2/ Holocene sediments in the Mekong River Delta.

#### Correspondence

Correspondence should be mailed to:



Dr. Ta Thi Kim Oanh  
 Department of Geography  
 Sub-Institute of Geography in Ho Chi Minh  
 City  
 01 Mac Dinh Chi Str., Dist. 1, Ho Chi Minh  
 City, Vietnam  
 E-mail: sedlap@hcm.vnn.vn

Vietnamese – Japanese Geological Meeting  
 2002  
 Delta Evolution and Recent Environmental  
 Changes  
 22nd – 27th December, 2002  
 Ho Chi Minh City, Vietnam

Registration Form:

Name, Prof. Dr. MSc. Mr. Ms:  
 .....  
                     First    Middle    Last  
 Address: .....  
 Country: .....  
 Telephone: ..... Fax: .....  
 E-mail: .....

Accompanying Person:  
 (Yes, No) If yes, Name Mr. Ms. ....

I likely present ( ) a talk; ( ) a poster at the  
 meeting  
 The title is:  
 .....  
 .....  
 .....

Date: / / 2002

Signature .....

Please Return This Form by June 24, by fax, e-  
 mail or post to Dr. Ta Thi Kim Oanh, Depart-  
 ment of Geography, Sub-Institute of Geogra-  
 phy in Ho Chi Minh City, National Center for  
 Natural Science and Technology, 01 Mac Dinh  
 Chi Str., Dist. 1, Ho Chi Minh City, Vietnam.  
 Tel: 84-8-8220829, Fax: 84-8-8299618, E-  
 mail: sedlap@hcm.vnn.vn

「Anthropocene」の時代へ  
 -IGBP Science シリーズから -

1990年から始まったIGBP(地球圏・生物圏国際  
 協同研究計画)の第1期のとりまとめの会議が  
 2001年7月にオランダで開催され,2003年1月か  
 ら始まる第2期のIGBPに向けて過去約10年間の  
 第1期の成果の統合と総括,第2期の内容に関して  
 討議が行われました。これに合わせて,現在IGBP  
 からIGBP Science シリーズが出版されています。

この中の第4号「Global Change and the Earth  
 System: a Planet under Pressure」に,  
 「Anthropocene」という用語が用いられています。  
 Crutzen and Stoermer (2000)により提案された用  
 語です。主に産業革命以後の近年の地球環境の変動  
 は,過去10-12 kaの完新世(Holocene)や第四紀  
 の変動に匹敵し,生物圏を含めた地球環境を大きく  
 変動させています。この変動が人間活動に起因する  
 ことから,Anthropogenic(人間活動による)とい  
 う用語と「cene(世)」を合わせて作られた用語  
 です。他の新生代の用語に従えば,Anthropocene  
 は,「人新世」とでも訳すればよいでしょうか。こ  
 のもAnthropoceneを理解するためには学際的  
 な取り組みが必要であり,全体を総合的に理解する  
 Earth System Science(地球システム科学)の考  
 え方が強く出されています。

地球の歴史や地質時代と層序を取り扱ってきた地  
 質学とは少し別のところで「Anthropocene」とい  
 う新たな時代区分が用いられ始めています。この時  
 代区分は,従来の地質時代とは異なり,地層に依っ  
 ていません。しかし,過去の地球の変動との差異か  
 ら出された考え方であり,地質時代の区分が生物種  
 の消滅や地球環境の変化で決められていることを考  
 えれば,基本的な考え方は同じです。地質学や第四  
 紀学も「地球システム」の科学の一部を構成してい  
 ます。現在の地球環境に関係した学問への貢献,社  
 会への貢献を考えれば,地質学や第四紀学からの取  
 り組みを,教育を含めて真剣に考える必要があるで  
 しょう。

これらのシリーズは,IGBP事務局から無償で配  
 付されています。詳細はIGBP事務局のweb siteを  
 ご覧ください(<http://www.igbp.kva.se/>)。

参考文献

Crutzen, P.J. and Stoermer, E.F. (2000) The  $\times$   
 Anthropocene  $\times$ . IGBP Newsletter no. 41, 17-  
 18.  
 Crutzen, P.J. (2002) Geology of mankind. Na-  
 ture, 415, 23.  
 (斎藤文紀:産業技術総合研究所 海洋資源環境研  
 究部門)



## 第18期日本学術会議古生物学研究連絡委員会第5回議事録

日時：2002年3月4日(月) 13:30～17:00  
 場所：日本学術会議 第5部会議室  
 出席：斎藤 常正会員、野田 浩司、小泉 格、長谷川 善和、小笠原 憲四郎、八尾 昭、辻 誠一郎、西田 治文、北里 洋、大 路 樹生 各委員  
 欠席：加瀬 友喜、瀬戸口 烈司委員  
 学術課：中野事務官

### 議 題

#### 1. 前回議事録の承認

第4回議事録案が示され、会議開催場所の訂正のち承認された。

#### 2. 学術会議報告(斎藤)

1) 2月14日に連合部会が行われ、「日本学術会議の在り方について」、学術会議の中で現在議論されている科学者コミュニティ案が紹介された。今後大きな組織の見直しが行われる可能性のあることが示された。

2) 国際会議への平成14年度代表派遣として、斎藤常正会員が第1回国際古生物学会議(シドニー)へ出席することとなった。

3) 平成16年度の国際会議開催に対する助成申請は、19件の申請があり、8件が認められた。

#### 3. 研連の再編(斎藤)

2月14・15日に第4部会で審議が行われ、第4部研連の見直しが行われた。新しい案では従来の研連から計57名が削減され、新研連が7つ置かれる。古生物学研連は定員1名減となり存続する。また地質学総合研連は、その下に環境地質学(または応用地質学)、第四紀学の2つの専門委員会を置く案である。これらの案は3月の第四部会、4月の総会を経て決定される。

#### 4. 科研費配分委員候補者の推薦

細目「層位・古生物学」の第一段審査委員候補者に関し、日本古生物学会に6名、日本地質学会に2名、第四紀学会に2名の推薦依頼を出すことになった。

#### 5. 古生物タイプ標本の保全・データベース化(小笠原)

データベースのオンライン公開に関し、日本古生物学会の承認を得た後、出版の1年後をめどに行う予定が示された。また、現在第2巻は編集最終段階を迎え、刷り上がり計586ページ、印刷費見積もりは250万円である。文部科学省出版助成を申請している。また第3巻は未収録分および未選出分類群からなり、10月に原稿締め切りの予定。

#### 6. 博物館学芸員の科研費申請資格(野田)

古生物学会会員名簿(1999年版)に基づく科研費申請資格が認められていない全国の博物館在籍研究者の一覧が示された。これによると、48博物館に総数78名の研究者が在籍する。現在改定中の名簿が出版され次第、新しいデータに基づいた調査を行い、申請資格取得について文科省に対する働きかけを進めることが議論された。

#### 7. 第18期研連の活動

博物館や大学に保管されている研究資料(古生物標本)の保全・管理の問題、大学の古生物研究者の減少などに関し、議論が行われた。次回さらに議論

を行うこととした。

## 日本第四紀学会 2001 年度臨時評議員会議事録

日時：2002年6月1日(土) 13:00～17:00  
 場所：日本大学文理学部本館1階 会議室 A, B  
 議長：織笠 昭

出席者：熊井久雄(会長)、遠藤邦彦、太田陽子、大場忠道、小田静夫、小野 昭、織笠 昭、菊地隆男、鈴木毅彦、土 隆一、永塚鎮男、福澤仁之、町田 洋、真野勝友、山崎晴雄(以上評議員)、委任状24通

小野幹事長の挨拶後、織笠評議員が議長に選出され、議事が開始した。まず始めに、幹事会より会費値上げ案が提出され、その後これに関する審議が行われた。学会運営に関する質問・意見が相継ぎ、今後、さらなる学会運営の経費削減に努めるよう要請がなされたが、最終的に今回の値上げ案は了承された。以下は値上げ案と審議の概要。

### < 会費値上げ案 >

始めに前回の値上げに関する報告として、1981年と1993年にそれぞれ3000円、5000円、5000円、7000円の値上げ(いずれも正会員)がなされたことが、当時の値上げ理由とともに紹介された。次に今回の値上げは『第四紀研究』が年5号から年6号化に踏み切ったことに起因することと、それに対するこれまでの経費削減対策(印刷会社変更に伴う印刷費軽減、発送費及びその手数料の軽減、その他)が報告された。一方で、最近になり編集費が増大してきた状況や、講習会・ミニシンポジウムなどの日常の活動となる企画に対して十分な予算が組めなくなってきたことなどが報告された。そしてこのままの会費では、赤字が予想されることが述べられた。また、現在の会費が、他の学会に較べて会員特典の面で優れていることが具体的数値で示された。

さらに正会員の会費が1000円、2000円、3000円でそれぞれ値上げされた場合の予算推移試算が示された。以上の調査・試算をもとに、今回、2000円の値上げが妥当であることが述べられ、増収分を学会誌の進展や講演会・シンポジウムなどの第四紀学への普及にあてていくとともに、50周年事業など将来の諸活動の資金としての積み立てが可能となることが強調された。

### < 審議内容 >

編集費増大の原因がどこにあるのかなど、編集を取りまく状況に関する質問・意見が多く出された。これに対して、現状での編集方針から編集費をただちに軽減することが困難であるが、改善に向けて努力するとの回答がなされた。また、値上げした場合、将来の諸活動としてどの様なことが考えられるかについて質疑・意見が出された。以上の様な審議がなされた後、今回の値上げ案は承認され、2002年度の総会で、会費値上げを目的として、会則第7条[会費]の改訂案を提出することになった。

以上

## 2001年度第6回幹事会議事録

日時：2002年4月27日(土)10:30 - 13:00 会場：  
早稲田大学教育学部 16号館5階  
出席：真野勝友，小野 昭，鈴木毅彦，山崎晴雄，  
竹村 恵二，福澤仁之，海津正倫，河村善也，小田静  
夫，町田 洋  
欠席：熊井久雄，宮内崇裕，中川庸幸

### 1. 報告事項

庶務：前回議事録確認．会員消息2002年2月分・  
受入図書(6機関から9冊)の報告．  
日本学術会議団体登録提出書類用の役員一覧名簿の  
確認．  
Himalaya-Karakorum-Tibet Workshop (日本開  
催)の開催年度が2004年になるとの変更．第四紀学  
会に関わる科研費補助金審査委員候補者の報告．日  
本学術会議第4部会からのJABEEに関するアン  
ケートを提出したとの報告．調査研究の提案公募記  
事の掲載依頼がなされたことについて．

編集：第四紀研究41巻2号を4月初頭に刊行(原  
著論文4編，短報2編，書評1編)．  
41巻3，4号の編集作業を実施中．3号は昨年夏の  
大会シンポジウムについての特集号であり，3月16  
日時点で4点の原稿が届き，他を催促中．到着原稿  
から順次，査読・印刷作業を行なう予定．

行事：幹事会で出た今年度大会巡検に関する質問に  
対し，準備委員会からの回答が報告された．以下の  
通り．1.巡検参加者が少数になることの危惧に対  
して，松本での大会参加者は他の大会より多いと見込  
まれ，3コース設定は可能と考えられるとのこと．  
あわせて参加者を増やすために申込期間を長くする  
とのことであった．2.巡検の3コースはそれぞれ  
テーマ別になっていて，第四紀学会らしく一つの  
コースで，いろいろなテーマのもの(例えば旧石器，  
地層，火山など)を見るようにできないかという意  
見に対しては，現在設定しているコースを大きく変  
えることは難しいが，そのような意見をふまえて，  
見学地を多少増やすなどの努力をすることと  
であった．その他，大会の一般研究発表の講演要旨の  
原稿がすでに1件到着．

企画：第8回日本第四紀学会講習会を都内で開催す  
ることを検討中であり，テーマの一つとして湖沼堆  
積物の調査・分析法を考えている．また，ミニ・シ  
ンポジウムも検討中である．

広報：第四紀通信9巻2号を刊行した．また，第四  
紀通信9巻3号を準備中．

会計：次回，臨時評議員会で審議される値上げ案提  
出に関する準備状況について．

第四紀研究連絡委員会：大村明雄会員に代わり奥村  
晃史会員が研連委員となったこと，及び研連共催の  
シンポジウムに関する報告があった(詳細は研連議  
事録として第四紀通信に掲載予定)．またINQUA  
招致WG幹事会の最近の動向に関する報告．

### 2. 審議事項

・50周年事業内容に関してどのような企画があるか  
審議した．具体案として第四紀地  
図の改訂版やその英文化・電子化，各種出版物，国  
際シンポジウムの開催など，様々  
な可能性を検討した．  
・臨時評議委員会で審議予定の会費値上げ案につ  
いて審議した．  
・会費値上げに関する議論が進んであることを会員  
に広く周知するため，次回総会に  
て会費値上げ案を提出予定であることを第四紀通信  
9巻3号に掲載することとした．  
・最近2回の呼びかけにもかかわらず学生会費の更  
新申込書提出のなかった会員に対  
しては正会員として会費を請求することとした．  
・小野幹事長の長期海外出張に対する措置について  
審議した．

## 第四紀学会2001年度第7回幹事 会議事録

日時：2002年5月18日(土)14:00 - 16:00 会場：  
東京都立大学 人文学部棟 1階 142 演習室  
出席：熊井久雄，真野勝友，小野 昭，鈴木毅彦，  
山崎晴雄，竹村 恵二，福澤仁之，小田静夫，宮内崇  
裕，中川庸幸  
欠席：海津正倫，河村善也，町田 洋

### 1. 報告事項

庶務：前回議事録確認．会員消息2002年3月分・  
受入図書(2機関から9冊)の報告．  
日本学術会議団体登録提出書類用の確認．第四紀通  
信記事(9巻3号)について．  
企画：第8回講習会として，「湖沼・内湾・レス堆  
積物コアの採取・解析法」(2002年8月22日長野  
県，10月13-14日都立大)を準備中．

### 2. 審議事項

第46回粘土科学討論会(主催：日本粘土学会)を  
共催することとした．臨時評議委員会で審議予  
定の会費値上げ案について評議会用資料を基に審  
議した．小野幹事長の海外出張により真野副会  
長が幹事長代理を勤めることとなった．次回の幹  
事会を6月29日に開催することとした．場所は早稲  
田大学予定．

## 第四紀学会2001年度第8回幹事 会議事録

日時：2002年6月29日(土)14:00 - 16:00 会場：  
早稲田大学教育学部 16号館5階  
出席：熊井久雄，小野 昭，鈴木毅彦，山崎晴雄，  
中川庸幸  
欠席：真野勝友，河村善也，福澤仁之，宮内崇裕，  
竹村 恵二，海津正倫，小田静夫，町田 洋

### 1. 報告事項

庶務：前回幹事会議事録・評議員会議事録確認．会

員消息 2002年4,5月分・受入図書（8機関から10冊）の報告．日本地質学会より第三種・第四種郵便制度の存続要望に関する依頼がきたこと．論文賞選考の状況．井関弘太郎元会長逝去とその対応について．

編集：昨年夏の鹿児島大会シンポジウムの特集号を第四紀研究41巻4号を8月初頭に刊行予定．未着原稿については今回の号には掲載しない旨．編集委員会内で編集費増大に関する議論があったとの報告．

行事：松本大会での要旨集を印刷部数300，価格2500円とする原案が報告された．（メールによる報告）

広報：第四紀通信9巻3号を刊行し，第四紀学会ホームページにも掲載した．また，原子力安全基盤調査研究の公募についてもホームページに掲載した．次号第四紀通信9巻4号の締め切りは7月10日頃とする．（メールによる報告）

企画，会計，渉外：報告事項なし．

## 2．審議事項

・ICDP 国際ワークショップ「Lake Biwa and Lake Suigetsu: Recorders of Global Paleo Environment and Island Arc Tectonics」を後援することとした．

・2002年大会委任状を効率的に集めるため，葉書形式の委任状を作成し，第四紀通信・第四紀研究と同封することにした．

・2002年評議員会・総会資料の作成日程を審議した．最終的に8月9日までに学会センターに持ち込むために，7月16日までに各幹事より庶務幹事へ原稿を提出し，7月24日幹事会で最終確認することとした．

・次回幹事会を2002年7月24日(水)14:00～（会場：早稲田大学教育学部16号館）で開催することとした．

・幹事会として，50周年（2006年）事業を取り組むための組織づくりを次回幹事会で審議し，次回総会でも50周年事業に関する取り組みを報告することとした．

・第四紀研究連絡委員である小野昭会員の長期海外出張に対する措置について審議した．

・2003年開催の第四紀学会大会（8月下旬大阪府で予定）に関して情報交換を行なった．





第四紀通信に情報をお寄せ下さい  
第四紀学会広報委員会 名古屋大学環境学研究科地理学講座  
海津正倫 (e-mail: umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel : 052-789-2270  
Fax : 052-789-2272  
原則として奇数月月上旬原稿締切, 偶数月1日発行予定です。  
(原稿・写真等は随時受け付けています。)  
第四紀学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/qr/QR2home.htm> で, 第四紀通信バックナンバーのPDFファイル  
を閲覧できます。